

史跡 しせき  
 安治川橋之碑 あじかわばしのひ

(所在地) 西区川口二丁目四



(ひぶん)

【碑文】 安治川橋之碑

江戸時代初期までの淀川河口部には九条島が流れを遮る位置にあり  
 洪水がたびたび起こり、また土砂堆積たいせきにより舟運にも不便をきたす  
 ことが多かった。このため貞享元年（一六八四）幕府の命により、  
 河村瑞賢が水路を開削し、安治川と名付けられた。その後、周辺に  
 富島や古川の新地開発が進められ、元禄十一年（一六九八）に完成  
 した。安治川橋はこの新地の開発に伴い初めて架設された。  
 江戸時代末期、幕府は開国に備え、この地を外国人居留地として、  
 準備を進め、明治新政府によって明治元年（一八六八）大阪開港と  
 ともに外国人に競売された。居留地きょりゆうちには、洋館や舗装道路ほそうが造られ  
 大阪の文明開化の拠点となった。

明治六年（一八七三）  
居留地の交通の便を図  
るため、新しく安治川  
橋が架けられた。

この橋の中央二径間は  
西欧から輸入された鉄  
橋で、高いマストの船  
桁が航行する時には、橋  
桁が旋回する可動橋で  
あつた。当時の人々は  
この旋回する様を見て  
「磁石橋」と呼び大阪  
名物の一つとなつた。  
明治十八年（一八八五）  
大阪を襲つた大洪水は  
多くの大川の橋を流し  
流木となつて安治川橋  
に押し寄せた。橋はこ  
の流木や洪水に抵抗し  
よく耐えたが、市内に  
洪水の恐れが生じたた  
め、やむなく工兵隊に  
より爆破撤去された。

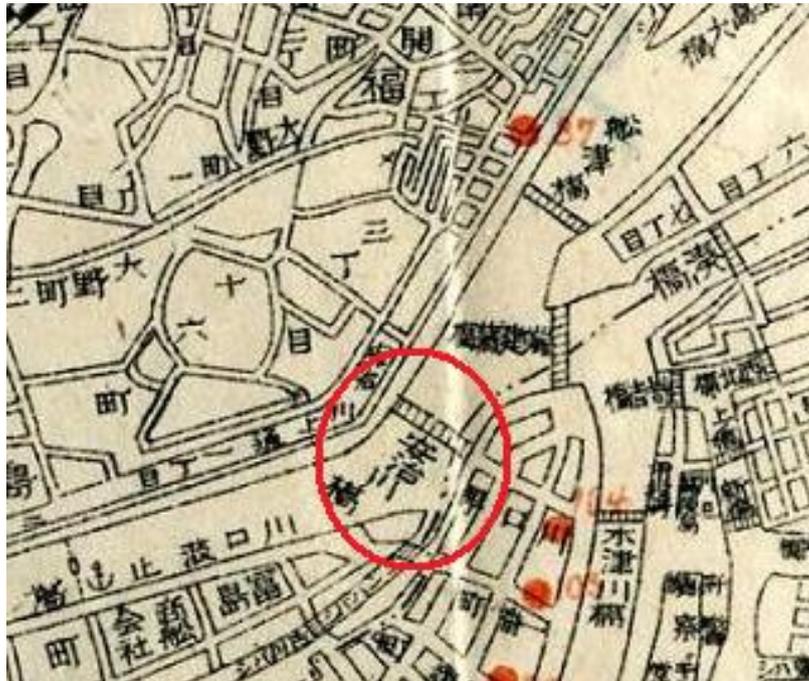
平成三年三月

大阪市

### 【図】

「浪花安治川 新橋之図」（神戸市博物館蔵）

『大阪市街図』明治36年（吉岡平助刊）より



安治川橋は、現在の福島区野田と西区川口を結ぶ橋であつた。  
元禄期初めて架けられ、その後何度か架けかえられた。地図で見ると、  
この鉄橋が撤去されたあと、橋が架けられたようだが、成立や廃止の詳細  
はわからない。